

第1学年4組 道徳科学習指導案

- 1 **主題名** よりよい社会の実現 **内容項目** C 社会参画、公共の精神
- 2 **ねらい** 佐藤さんの思いを考える活動を通して、社会の一員として活動するには、自らの考えや思いが計画から必要であることに気づき、これからの社会とのかかわりの中で生かしていこうとする態度を育てる。
- 教材名** すべての人に読書の楽しさを（出典：彩の国道徳「未来に生きる」）

3 主題設定の理由

(1)ねらいや主題内容について

本主題は、内容項目C〔社会参画、公共の精神〕の「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。」に関するものである。2022年より成人年齢が18歳へと引き下げられた。これは18歳、19歳の若者の自己決定権を尊重するためであり、またその積極的な社会参加を促すためでもある。つまりは中学生段階では社会に属するということがどのようなものであるかを理解しておく必要があると考えられる。

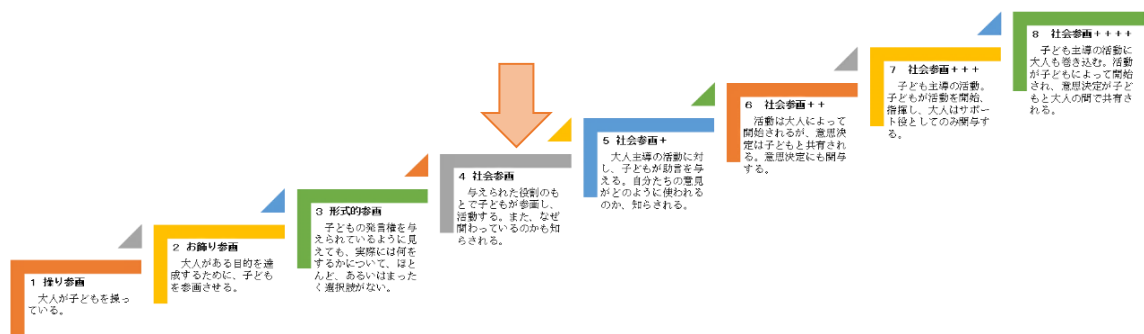
内容項目の「社会『参画』」と「社会『参加』」の違いは、計画段階から加わるかどうかである。「社会参画」は社会の一員として積極的に世間の様々な計画に関わろうとすることである。決まっていることを行うのは受動的であり、自ら計画から関わることで、その活動の意義をより深く考え実行することができ、社会的な役割や責任をより果たせるのだと考える。

「公共の精神」とは社会全体のために尽くす精神である。個人の損得ではなく、社会の発展にとって、どのような考え方が必要であるかは、社会の一員としての自覚の芽生えない中学生には理解が難しい。中学生にとっての社会は学校である。社会に属するということがどのようなものなのかを理解した上で、みなが同じ方向を向いて活動することで、社会が発展していくことを学び、学校生活に生かしていく必要がある。

中学校は高校という自立の時期に向けた準備期間であると考ええる。小学校では教師が手本を見せ、手取り足取りで教えてもらい、まねながら、自分たちのできることを増やしていく。中学校では自分たちでいつ、どのように、どうすればよいかなど考え、活動を行い、反省や改善をしながら自分たちのできることを増やしていく時期だと考える。したがって、誰かに任せたり、押し付けたりするのではなく、自ら計画に関わり活動するなかで充実感を感じ、学校という社会の中でその一員としてよりよくしようとする心の育成を図る。

(2)これまでの学習状況及び生徒の実態について

本学級の生徒は、穏やかな生徒が多く、とても素直であるため、係活動に積極的に参加し活動することができる。しかし、それは活動内容をこなしているにすぎず、自ら考えた活動を行っているわけではない。中学校で新たに始まった取り組みも、最初は戸惑っていたが徐々に慣れ、自分たちからも行動できるようになった。また本校では生徒会憲章という生徒が制定した「学校をよりよくしよう」とする活動が行われている。しかし、1学年という時期は教師や上級生が活動のお手本を見せ、決まったことを行う機会が多く、計画から関わる生徒はまだまだ少ない。したがって、なぜしなければならないのか本質となる部分についての意識が薄く、社会的な役割や責任を果たす考えとは遠い。このような生徒の実態から、本学級の「社会参画」に対する価値の理解は、大体次のような位置(Ⅱ)にあると考えられる。



本授業ではこのような生徒の実態を踏まえ、なぜその活動が行われるのか本質を捉え、与えられた役割に責任をもって行うとともに、自分たちの考えや意見を持ち、計画に反映させることで、より主体的に活動しようとする態度を育てていく。

(3)教材の特質や活用方法について

本教材は、視力を途中で失った佐藤さんが、社会で人のためになる仕事をしようと小学校教員から図書館司書になってからの話である。もともとあった点字本や対面朗読サービスから、さらにたくさんの人々（高齢者や、発達障害、知的障害、肢体不自由の人など）が使うことのできるマルチメディアデイジーに進化させたという内容である。この教材の特質は、佐藤さんが視力を失ってから図書館司書になるまでと、図書館司書になってからの佐藤さんの行動がそれぞれ描かれていることである。「社会」に助けられた佐藤さんが、今度は「社会」の人々のために積極的に関わっていった行動について考えることができる。そこで、以下の2つのポイントを中心に教材を活用していく。

- ① 視力を失ってふさぎ込んでいた佐藤さんが社会へ復帰できたのはどうしてか考える活動を通して、立ち直れないほど落ち込んだ佐藤さんの気持ちに触れ、人間理解を深める。
- ② 佐藤さんがなぜ自分以外の人のために、マルチメディアデイジーを広める活動を行ったのか考える活動を通して、主体性をもって活動を行う佐藤さんの行動に触れ、価値理解を深める。

以上の理由から、本主題を設定した。問いかけシートを活用し、生徒同士が意見を言って終わりになるのではなく、お互いに問いかけをすることで、より自分の考えをより深められるよう工夫を行う。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される生徒の発言	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入	1 文字の読みにくい例を挙げ、全員が同じ回答になるように促す。 ・あるみかんのうえにあるみかんをもって行ってね	・すぐに読める。 ・補助すれば読める。 ・あるミカンの上にあるミカンを持って行ってね。 ・アルミ缶の上にあるミカンを持って行ってね。	・みんなが同じように読めるようにするにはどうしたらよいか考えさせる。 ・実際のデイジー図書を見せ、全員が同じように読書ができる道具があること
	よりよい社会は、どのようにすれば実現できるだろうか		
展開	2 教材「すべての人に読書の楽しさを」を読み聞かせ考えを深める。 3 教材について話し合う。 ○視力を失ってふさぎ込んでいた佐藤さんが社会へ復帰できたのはどんな支援があったからか。	・(具)佐藤さんが社会復帰できたのはどうして?) このままよくよしてはいけないという佐藤さんの気持ちの強さ。 ・(根)それだけかな?) 視覚障害者の仲間たちと助け合うことができたから。 ・大学で司書になるための支援をしてくれたから。	・佐藤さんの視覚障害になってからの生活を可視化し、わかりやすくする。
	◎佐藤さんはなぜ自分以外の人（高齢者や、発達障害、知的障害、肢体不自由の人など）のために、デイジー図書を広める取り組みを行ったのだろうか。	・困っていたときに助けてくれた恩返しをしたいから。 ・(具)その人に直接ではなくたくさんの人へ?) 自分のように困っている人の助けになりたい。 ・(関)どうして佐藤さんが	・最初は絶望していた佐藤さんが社会の援助で徐々に前向きに生活している姿に注目させる。 ・視力を失った当初は社会から援助してもらう立場だった佐藤さんが、今度は援助する側に立っているところに着目させる。 ☆自ら計画、活動を行うことで、自分の思いや活動

	やる必要があったの?) 視力を失った自分にしか できないことだと思った から。 ・(根)例えば?) 歩行が難 しいとか、勉強するにも教 材が少ないとか。 ・(妥)でも普及してもら うのは他の人でもできる のでは?) 自分が始めたこ とは最後まで責任をもっ て行いたい。 ・(関)当事者が自ら関わ っていくことが大切なの かもしれないね) ○佐藤さんが、最後満面の 笑みを浮かべたのはどう してだろうか。	に対する責任が増し、社 会をよりよくすることが できることについて、話 し合いを通して様々な角 度から考えている (話し 合い・発言)。 ・佐藤さんが広めたデイジ ー図書によってうまく音 読できた親子の笑顔を見 たから。 ・社会参画によって、多く の人がよりよい生活がで きることを伝える。
	4 自己を見つめる。 自分が今まで経験した ことを思い出して、より よい社会の実現には、ど のようなことが必要な かふり返り、これからは どのように行動しようと 思うか書きましょう。	☆自分が今までに体験した ことを想起し、自分との 関わりの中で社会 (学校) の一員として、どのよう によりよくしていけばよ いか考えを深めている。 (記述)。 ・できた経験、できなかった 経験を振り返させる。
終末	5 教師の説話を聞く。 ・中央中学校には、生徒会憲章というものがある。 ・当時の生徒会本部の人が「理想とする学校」を掲げ、よりよくしていこうと計画し、活動してきた。 ・先生たちが考えたのではなく、生徒自身で計画してきたことだから、現在まで繋がったのだろう。	・受け身ではなく、自分たち で計画し活動すること で、よりよい学校生活に できることを伝える。

5 他の教育活動との関連

合唱コンクールの目標決めや目標を達成するための活動を学級会で決定する。その際に生徒自身でよりよい合唱コンクールになるための取り組みを企画・運営できるとよい。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・自ら計画、活動を行うことで、自分の思いや活動に対する責任が増し、社会をよりよくすることができることについて、話し合いを通して様々な角度から考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・自分が今までに体験したことを想起し、自分との関わりの中で社会（学校）の一員として、どのようによりよくしていけばよいか考えを深めている。

7 板書計画

● 自分のように困っている人の助けになりたい。

● 視力を失った自分にはできないことだと思ったから。

● 自分が始めたことは最後まで責任をもって行いたい。

◎ 自分以外の人のために、マルチメディアデイジーをつくる取り組みを行ったのだろうか。

小学校の先生
病気で視力を失う（視覚障害に）
資格を取って図書館で働く
マルチメディアデイジーを作成

佐藤聖一さん

集まって生活を営む、その集団＝学校

★よりよい社会は、どのようにすれば実現できるだろうか

すべての人に読書の楽しさを

活動 計画 気持ち